

はじめに

横浜市では、市内の小学校を対象とし、「環境教育」、「福祉教育」、「キャリア教育」の視点から、モビリティマネジメントについて学ぶ出前授業を実施しています。

「環境教育」授業は、マイカー利用の生活から公共交通などを適度に利用する生活への転換を促す「モビリティマネジメント」の一環として、様々な移動手段を目的や状況に応じてかしこく使い分ける視点を身に付けることを目的としています。今年度は常盤台小学校にて実施しました。

環境教育の概要

授業冒頭ではSDGsに触れ、公共交通をかしこく使うことは「11.住み続けられるまちづくりを」と「13.気候変動に具体的な対策を」に関連するということを伝えました。また、温室効果ガスの原因でもある二酸化炭素が日頃どのような場面で排出されるかについて、クルマがもたらす環境への影響や、バスの利用が減っている現状などを説明しました。

座学を実施した後は、「交通すごろく」ゲームを使ってクルマの利用と渋滞の関係、環境も配慮した公共交通の利用について考えてもらいました。

（※交通すごろく：クルマもしくはバス（公共交通）カードを使ってゴールを目指すゲーム。バスは一定マス進めるが、クルマは利用人数によって進めるマスが決まり、二酸化炭素排出量も多くなる。ゴール順位と二酸化炭素排出量順位で最終順位を決める）

移動手段を選ぶときは「環境」、「健康」、「お金」、「利便さ」など様々な視点から見るのが大切であり、「行き先や状況に応じて、かしこい移動を考える」ことが大切であることを伝え、授業を終えました。

おわりに

交通という身近なテーマでしたが、あらゆる活動や生活に占めるマイカーの二酸化炭素排出量の割合や、バスの乗車人数の減少など、初めて知る内容もあったようです。また、ゲームを楽しみながら、クルマ利用による環境や渋滞への影響を実感し、公共交通への親しみが深まったようでした。

今回の授業でそれぞれの交通手段の特徴を知り、便利なクルマに頼りすぎず、バスなどの公共交通で行ける所は公共交通を使ってみる、という気持ちを持ち、家族やお友達などと少しずつ実践してほしいと思います。

■講話に用いたパワーポイントと交通すごろく



■授業の様子

